

(1) 本年度のNIE活動の概要

研究指定校2年目の実践では、昨年度の実践を踏まえ、新聞の1面、社説の読み比べをした上で、社説の作成を行う授業実践を行った。

活動の中では、社説づくりがしやすいように、2時間を使い、新聞を蛍光ペンで色分けをし、記事の中身を「事実」「予定」「意見」に分類し、特徴を比較した。その上で、社説には「意見」の部分が多いことに気づき、イートイン脱税を題材にして社説をまとめることを通して、マスメディアの役割を考える本時を計画した。

実践を振り返ると、新聞記事を読み込むことで、特徴を理解するとともに、新聞に対する関心を高めることができた。また、マスメディアの役割を考える上で、身近な題材をもとに自分が新聞記者として社説を作成することで情報発信の難しさを体験的に学ぶことができた。

(2) 本年度のNIE活動への取り組み状況（4月時点）

本校は全校生徒144人、8学級ある。指定校1年目の昨年度は、新聞活用という点での研究が進まず、教科書で取り上げている程度での新聞利用であった。本年度の研究授業学級は23人。ほぼ大半の家庭が新聞を購読しているが、記事を読んでいる生徒は2人程度で、残りの大多数はテレビ欄などを見る程度であった。また、世の中の情報をどのように入手するかという質問に対し、テレビ・インターネットと答える生徒が大半であった。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

『信濃毎日新聞NIEガイドブック 新聞で学びを拓くー新聞を活用する学習ガイドー第3版』49ページに新聞の使い方について、「自分が作った新聞の活用方法を考えて行動し、情報を発信する責任や情報を受ける側としての大切なことを学ぶ」と紹介されている。

昨年度の実践は「メディアの役割」という点で、各新聞社の記事を比較検討し、主張の違いを捉えようとしたが、事実の把握にとどまってしまい、マスメディアの役割を考えるまでには深まらなかった。事実認識も世の中を知る上で大切なことではあるが、それに終始するのであれば、社会科でNIEをやる意義が薄いように感じた。そのため、本年度は世の中の出来事に主体的に関わっていく意識を持つ基礎として「公正な世論形成」を体験する機会として、社説の作成を授業に取り入れようと考えた。

本校の生徒の現状として、セーフティーネット講習会を行い、SNS等で自分の意見等を表現する際は、責任をもって行うという注意喚起を行っているが、意識できているとは言い難い。そこで具体的には、新聞を精読した生徒たちが、イートイン脱税という現状に対して、自分なりの記事を作成し、集団で検討・比較することを通して、公正な世論を形成のため、マスメディアの価値を体験的に学ぶことを仕組む授業を考えた。

(4) 全校での取り組み

生徒が新聞を閲覧しやすいように、玄関の近くに大机を用意して、各社の新聞を並べて、1

面の記事が見比べやすいように工夫した。

(5) 公開授業などの活動内容

1 単元名 現代の民主政治 マスメディアと世論 (3時間扱い)

2 単元設定の理由

授業クラスでは、週末の日記をやめて、メディアノートを作成している。スクラップブックに、週末自分が見聞きしたニュースを書き出すという課題である。生徒の選ぶニュースに関しては、新聞やテレビ番組など多様な媒体から選んでよいとしている。また、情報の信憑性という点から情報元が何であるかを明示するようにしている。目的としては、生徒たちがどのようなことに興味関心を抱いているのかという生徒の実態把握という側面が大きい。

メディアノート作成の実践を通して、生徒はネット記事や自分の関心のある分野を取り上げている傾向にあり、新聞のスクラップはほとんどない。そのような中でも、生徒の数人は、新聞から情報を取り入れようとしているが、どの生徒も媒体から与えられた情報以上のものを求める姿は少ない。

そんな中、9月に中日新聞で取り上げられた「アイヌ 認められぬ先住権 儀式用のサケ漁未申請で「違法」に」の記事に関わって、「これは、日本国憲法に関係することですか？」と尋ねるT生の姿があった。授業でこれを取り上げて、「日本は本当に平等なのか」という学習問題のもと、新聞記事を利用して学習を行った。結果、「日本にはいろいろな差別が残っているが、法律の制定などにより昔よりも改善されている」と考える生徒の姿を見ることができた。

この姿から、新聞を学習に取り入れることは、生徒たちが「事実を公正に判断する力」を身につけるきっかけになるのではないかと考えた。そこで、10月から始まった消費税10%にかかわる「イートイン脱税」を取り上げ、生徒の思考を深めたいと願い、本時を設定した。

3 単元の目標

3-1 主目標

消費増税にかかわる新聞記事の読み比べをした生徒が、イートイン脱税について、新聞社の記者として、社説を書き、内容を共有することを通して、国民一人ひとりの立場に立って情報提供をしているマスメディアが公正な世論形成する役割を果たしていることがわかる。

3-2 具体目標

A【社会事象への関心・意欲・態度】

消費増税という身近な話題に関心を持ち、意欲的に新聞の社説を作成することができる。

B【社会的な思考・判断・表現】

新聞の論調を比較しながら、メディアが公正な世論を形成するため工夫を考えたり、自分なりの社説を作成したりすることができる。

C【資料活用能力】

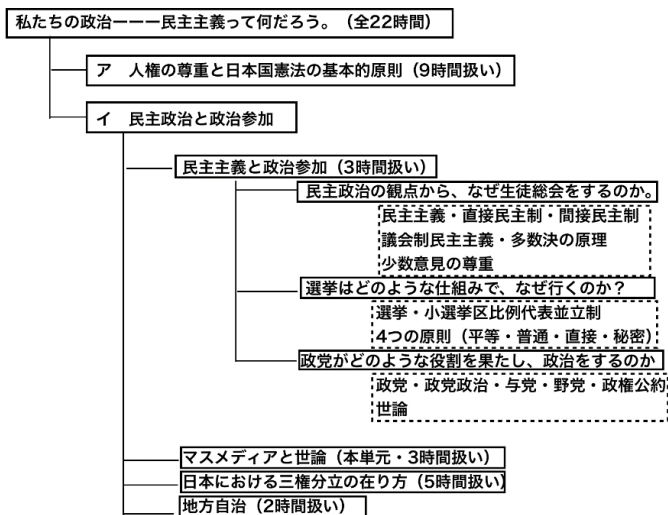
具体的な出来事を、新聞というメディアの特徴を理解しながら、必要な記事を選ぶことができる。

D【社会的な事象についての知識・理解】

社会において、公正中立な世論を形成するために、各新聞社がそれぞれの主張を持って、情報を提供していることがわかる。

4 単元展開

右の図のように「私たちの政治」について、全体計画を立てた。本時の小単元を設定するにあたり、前小単元は3時間扱いで「民主主義と政治参加」を行った。授業学習級では、点線の枠内にある用語について、学習を進めてきた。全体計画をもとに、「マスメディアは情報をどのように伝えているのだろうか」という小単元を貫く問いを立て、新聞活用をできるように単元展開を考えた。



学習問題・学習活動	指導・評価	時間	資料
【小単元を貫く学習問題】マスメディアは情報をどのように伝えているのだろうか。			
メディアの役割について、昨年の増税延期の記事を読むことを通して予想する。 マスメディアの中でも新聞はどのように情報を伝えているのだろうか。	◇公表された情報とマスメディアが発信したものの違いを読み取れるように、資料を提示する。 A (関心) C (能力)	1 時	2019年10月1日 第1面 (信濃毎日新聞) 消費税 10%スタート 5年ぶり引き上げ (読売新聞) 消費税きょう 10% (朝日新聞) 消費税 10% 5年半ぶり増税
各社の社説を比較・検討する。 第1面と社説、記事にちがいが出るのはなぜだろうか。	◇社説の読み取りを丁寧に行い、筆者の主張を整理するように助言する。 B (思考・判断)	2 時	2019年10月1日 社説 (信濃毎日新聞) 消費税の増税 (読売新聞) 5年半ぶりの消費増税 (朝日新聞) 消費税 10%
イートイン脱税の記事をもとに、新聞の社説を作成する。 イートイン脱税について、自分が新聞社の記者だったらどのような社説を書くだろうか。	◇社説を作成させ、全体で共有できるように、机間巡視をする。 B (表現) D (知識・理解)	3 時 (本時)	FNN PRIME 2019年10月4日午前11:50 (FNN.jp編集部) 「席に座るまでつまみぐいNG? 映画館の“飲食物の軽減税率”が曖昧なので各社の対応を聞きました」

5 本時案

5-1 主眼

消費増税にかかわる新聞記事の読み比べをした生徒が、イートイン脱税について、新聞社の記者として、社説を書き、内容を共有することを通して、国民一人ひとりの立場に立って情報提供をしているマスメディアが公正な世論形成する役割を果たしていることがわかる。

5-2 本時の位置 (全3時間扱い第3時)

前時：令和元年10月に発信された新聞の消費増税に関する社説を読み比べる。

5-3 指導上の留意点

- ・ ICT 機器を活用して、社説を作成する。

新聞記事を比べる際に、事前に写真データとして保存しておくことで、資料がかさばらず活動できるようにする。

- ・本校で購読している新聞の中から、10月1日に消費増税について、第1面、社説の両方で取り扱いのある3つの新聞を扱う。
- ・全体で共有しやすいように、大型提示装置・school Takt を利用する。

5-4 展開

段階	学習活動	・予想される生徒の反応	◇指導 評価	時間	資料	
導入	【単元を貫く学習問題】 マスメディアは情報をどのように伝えているのだろうか。				5	「席に座るまでつまみぐいNG? 映画館の ^① 「飲食物の軽減税率 ^② 」が曖昧なので各社の対応を聞きました」 FNN PRIME 2019年10月4日午前 11:50 (FNN. jp 編集部)
	【学習問題】 イートイン脱税について、自分が新聞社の記者として、どのような社説を書きだそうか。					
	1 資料を提示し、学習問題に対する予想をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・社説は言葉でことの重大さを訴えているが、普通の記事はグラフやわかりやすい文字を使っている。 ・「しかし同時に、所得や資産が少ない人への配慮、すなわち「再分配」の視点を忘れないようにするべきだ」と客観的に朝日新聞は書いてあった。 ・事実は言い切りや過去形が多いのに対し、考え方は「～べき」「～たい」など未来形が多い。 ・第1面は事実や今後の見通しが中心に書かれているが、社説では新聞社の意見も交えて書かれている。読んだ感じでは、新聞社側としては社説の方が書きやすそう。 ・自分が記者なら、イートイン脱税のなにが問題かを書きたい。 ・自分なら、脱税と言われているのはなぜか述べたい。 ・新聞でもイートイン脱税についても書いていないのはおかしい。 ・実際の記事を作ってみることでなにかわかるかもしれない。 	<p>◇前時を振り返り、本時の流れをイメージできるようにする。</p> <p>◇FNNの資料を提示し、学習問題を据えて、生徒たちの予想を立てさせる。</p> <p>◇前時の振り返りをしつつ、イートイン脱税が新聞記事になっていないことを伝え、本時の課題の設定を行う。</p>			

展 開	<p>【学習課題】 今までの新聞の読み比べを通して、イートイン脱税についての社説をつくらう。</p>		20	
	<p>2 記事を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な立場を意識するなら、良い面と悪い面を両方とりあげるようにしよう。 ・自分の考えでは反対だけど、記事にすると、買う人のことも考えないといけないから、書くのが難しい。 ・自分の考えに共感してくれる人もいるはずだから、賛成の立場で書いてみよう。 		
		<p>マスメディアの役割を理解しながら、新聞の社説を作成できたか。</p>		
	<p>3 つくった社説と記者としての思いを発表し、全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民が混乱することが予想されたから、この社説でも混乱がないような対策が必要だという視点で書きました。 ・政権に考え直すような書き方にして、イートイン脱税が起こるような軽減税率は反対である立場で書きました。 ・政権の立場を支持している人に向けて、国民に軽減税率について、理解を深めるような書き方がされと思ったので、このような記事にしました。 	<p>◇作成した記事を、大型提示し、全体で共有しやすいようにする。</p>	15
終 末	<p>4 マスメディアの役割についてまとめて、本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな意見があるから、それらの意見を新聞社は発信している。 ・いろいろな立場があることが新聞の公正中立の立場を大切にしていることにつながっている。 ・見出しの工夫や伝え方によって読む人にとっての印象が変わる。 ・実際に話を聞いて、情報との向き合い方を考えなくてはいけないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個人でマスメディアの役割についてまとめさせる。 ◇本時のまとめを書かせ、発表させる。 	10

6 教材研究

6-1 授業者の願いとして

消費増税1ヶ月前になって、新聞では軽減税率導入に対しての戸惑いが導入後に明らかになった。本時で利用する資料のようなイートイン脱税と呼ばれる身近な社会問題はネット記事としてあげられている。新聞では扱いが少ないイートイン脱税について社説を作成することで、国民一人ひとりの立場に立って情報提供ができるというメディアの役割を理解し、さらにメディアリテラシーに代表される情報活用能力を培いたいと考える。

6-2 本時の扱いについて

① 用語

「イートイン脱税」・・・軽減税率制度において、店舗等でお持ち帰り商品を購入した際に、食料品に対しては税率が8%であるが、店舗内の飲食スペースを利用した際は10%となる。利用に関しては、購入者の自己申告としているが、申告しないまま飲食スペースを利用する人をやゆして、インターネット上で使用されるネットスラング。

「公正」・・・東京書籍「新編 新しい社会 公民」によれば、私たち一人一人の置かれている状況に目を向け、特定の人が正当な理由もなく不利なあつかいを受けることがないようにするのが、公正の考え方とされている。本時において、各新聞社の主張を丁寧に分類し、社説を作成し、共有することを通して、さまざまな立場の主張や意見を取り入れたり、理解したりすることで、国民一人ひとりの立場に立って情報提供ができる点から、新聞の公正中立な立場を理解しやすいのではないかと考える。

「マスメディアの役割」・・・国民一人ひとりの立場に立って情報提供ができる点

② 資料

FNN PRIME 2019年10月4日午前11:50 (FNN.jp編集部)

「席に座るまでつまみぐい NG? 映画館の`飲食物の軽減税率`が曖昧なので各社の対応を聞きました」

資料では、映画館の前に掲示されている軽減税率について喚起した看板である。「ロビーでの飲食10% (ロビーでの飲食の方はお申し出ください) 劇場内飲食/お持ち帰り8%」

記事ではSNSでの反応 (映画館での軽減税率。シアター入る前につまみ食いでできないじゃん…) と実際の映画館での反応 (イオンシネマ・ユナイテッドシネマ・TOHO シネマ) について、まとめてあり、最後にこう述べている。「各社とも今のところ混乱の報告がないそうだが、導入前から指摘されていた曖昧な線引きが早くも波紋を呼んでいる中、利用者側の戸惑いは時間が解決してくれるものなのだろうか」

6-3 新聞記事の素材研究

本時を迎えるにあたり、第2時の扱いが大切となる。信濃毎日新聞・読売新聞・朝日新聞が与える情報において、「事実に基づいて記事になっているもの (事実)」・「事実から推論できること (予定)」・「各社の主張 (主張)」の3つに分けて、比較検討を行う。その際に、消費増税にかかわる姿勢が見えやすい10月1日の記事を比較した。

軽減税率が招いた混乱

10月より消費税が10%上がった。特に、私たちの生活の中では、食品類の税率が8%になる軽減税率や、電子マネーやクレジットカードによる決済時に、キャッシュバックが行われるなど、政府は対策を取っている。運用されてから、コンビニエンスストアなどで商品を購入する際に、店内で飲食するのか、持ち帰って食べるのかにより、税率が変わる。前者が10%で後者が8%である。そんな中、インターネットを中心に話題になっているのが、「イートイン脱税」といわれる行為だ。

これは、購入者がレジで会計する際に、本当は店内で飲食するものを、持ち帰って飲食すると申告することである。インターネットのSNS等では、これが脱税ではないかと問題視されている。

ではどのようにしたらイートイン脱税を無くせるだろうか。

写真の様にロビーと劇場内で税率を分けている映画館が多かった。しかしその様な対応をしていない映画館が存在していた。例えば、購入した飲食物を映画館の座席まで運び、映画を見ながら食べるのは持ち帰りなので税率は8%。しかし映画が始まる前のロビーで食べるのはイートイン脱税と言われているがこの映画館は映画が始まる前の一時的なものとして税率は8%のまま。しかもこの映画館は消費税が8%でも10%でも値段は同じだった。実は同じ商品に2つの価格があると混乱を招くので2年前ほどから検討していたそうだ。

資料：生徒がまとめた社説（全体イメージ）

（6）生徒の反応

- 資料の提示の場面で、「紛らわしい。うっかり食べたら脱税になる」「劇場内で食べるつもりで買ったから仕方がないのではないんじゃないかな」「間をとって9%でいいと思う」と生徒にとって、身近な問題としてとらえることができた。
- タブレット端末で社説をまとめたが、20分という作成時間では作成しきれない生徒が多かった。
- 時間を超過しても社説を完成させようとする姿が多くあった。
- 「取材した内容を自分の中で解釈してわかりやすく伝えるのが大変だった」という公正な立場で情報を伝え、読み手に自分なりの意見（考え）を持ち、新聞記者としての立場で授業を振り返る生徒がいた。
- 記事をまとめることができない生徒の中にもイートイン脱税にかかわる社説づくりで「給料が上がっていないのに消費税は高くなっている。高い給料の人から多くの税金を取れば、消費税を上げることもないのに」と消費者の立場から増税に関わって自分なりの考えを持つ生徒がいた。

（5）成果と課題

成果については、昨年度の実践以上に、読み比べをすることがしやすくなったように感じた。それは、読み込みの中で視点を持って、区別しながら整理できたところが大きかった。また、生徒の興味関心のある話題をもとに、社説を作ったことが、生徒の意見を引き出すことにとっても有効であったと感じられた。各新聞社にも主張があるように、生徒たちが作る社説にも多様な立場が出てきていた。授業でねらっていたマスメディアの役割を考えるものになった。課題については社説作成にあたり、十分な時間を確保することができなかった点である。短い時間で設定するのであれば、立場を明確にして作成にあたる必要があること、また、公正中立な世論を形成するために社説があること。この2点を生徒が理解していく手だてについて、検討していくことが必要であった。